

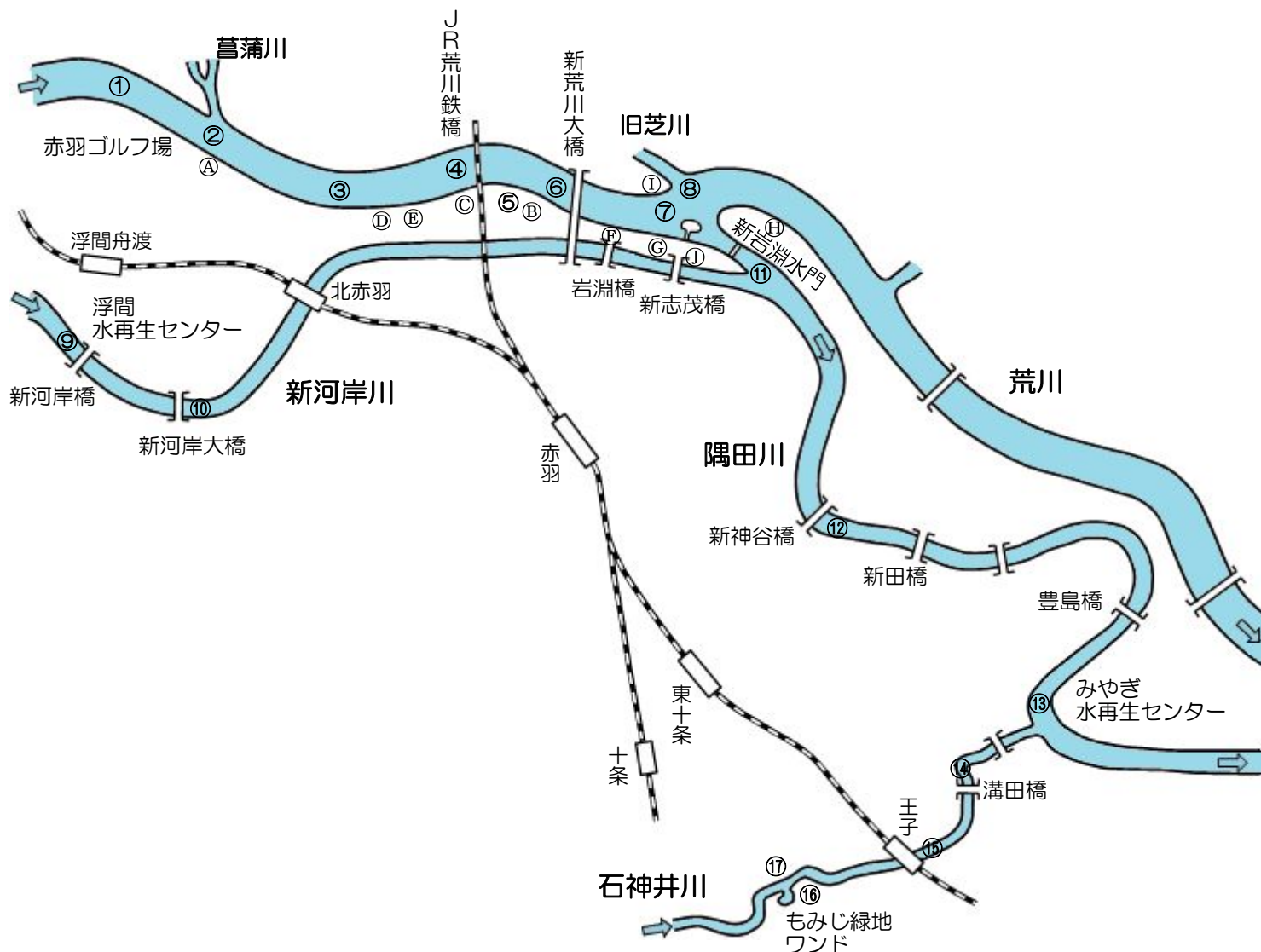
第35回
北区河川生物生息調査
報告書
平成30年度



平成31年3月
北 区

北区河川生物生息調査地点図（平成 30 年度）

釣り調査地点 A～J
投網調査地点 ①～⑰



投網調査地点

◎平成 30 年 9 月 12 日 ☆9 月 25 日 ★10 月 9 日

[荒川]

- ★-①戸田橋下流
- ★-②葛蒲川荒川合流点付近
- ★-③JR 荒川鉄橋上流 200-400m 付近
- ★-④JR 荒川鉄橋下
- ◎-⑤荒川子どもの水辺ワンド
- ★-⑥新荒川大橋下
- ☆-⑦新荒川大橋下流 600-800m 付近
- ☆-⑧旧芝川荒川合流点付近

[新河岸川]

- ★-⑨浮間水再生センター排水口付近
- ★-⑩新河岸大橋付近

[隅田川]

- ☆-⑪新岩淵水門下流
- ☆-⑫新神谷橋付近
- ☆-⑬みやぎ水再生センター排水口付近
- ☆-⑭溝田橋付近

[石神井川]

- ☆-⑮石神井川王子駅下トンネル内
- ◎-⑯もみじ緑地ワンド
- ◎-⑰もみじ緑地ワンド横本流

釣り調査地点

平成 30 年 10 月 9 日

[荒川]

- A 葛蒲川荒川合流点右岸
- B 荒川子どもの水辺ワンド
- C JR 荒川鉄橋上流 20m 付近右岸
- D JR 荒川鉄橋上流 200m 付近右岸
- E JR 荒川鉄橋上流 150m 付近右岸
- F 新荒川大橋下流 150m 付近右岸
- G 新荒川大橋下流 500m 付近右岸
- H 新岩淵水門 100m 付近荒川右岸
- I 旧芝川荒川合流点

[新河岸川]

- J 新志茂橋付近左岸

は じ め に

私たちの住む北区には、荒川をはじめ隅田川・新河岸川・石神井川の4河川が流れています。川は、昔から人々と深いかわりを持ち、まちの産業・文化の発展に大きな役割をはたしてきました。また、豊かな流れと美しい自然の景観も多くの恵みをもたらしてくれました。

しかし、戦後の産業経済の発展と急速な都市化の進行にともない、川は、工場排水や生活排水により著しく汚れてしまいました。なかには、一時期、悪臭がして魚も棲めないため、「死の川」と呼ばれた川もあったほどです。さらに、治水対策として垂直のコンクリート護岸がつくられ、人々をますます水辺から遠ざけてしまいました。

このように川が下水に近くなった時代から、近年は汚濁発生源に対する規制の強化と下水道整備等により、水質は良くなってきました。また、河川環境の整備も進み、各種の魚も見られるようになって、川は再び憩いの水辺として甦りつつあります。

しかし、魚などの水生生物が安定して棲め、誰もが安らぎやうるおいを得られる川としては、河川の構造改善、水質・流量の安定など、まだまだ多くの課題があります。さらなる水質改善や水辺環境の向上を図るには、区が各種の施策を積極的に推進することはいうまでもありませんが、区民の方々にも河川に対する強い関心を持っていただき、多方面からの対策を展開することが必要です。

区では、化学分析による水質調査だけではなく、河川の魚類生息状況を調査し、推移をみることにより河川環境を判断することを目的として、昭和59年度から「河川生物生息調査」を継続実施しています。この報告書は、平成30年度に実施した第35回調査の結果をまとめたものです。誰にでも親しめる水辺環境の実現に向けて、区民の方々に河川の水質や環境に対する理解を深めていただくための参考となれば幸いです。

なお、当調査にご協力いただいた北区釣魚連合会、淡水魚類研究者の君塚芳輝氏、飯島香織氏、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

【調査概要】

北区内の河川に生息している魚類を把握するために、9月12日、9月25日、10月9日の3回に分けて魚類調査を行いました。採集した魚は、種・亜種（以下種類とする）の同定、個体数、全長と標準体長（最少～最大）の測定を行いました。

第1回調査は平成30年9月12日に、石神井川もみじ緑地ワンドと荒川子どもの水辺ワンドで、歩いての投網・手網による調査をしました。石神井川もみじ緑地ワンドでは、直前にワンド内の水を本流に排水し、魚の採集がしやすい状態で調査をしました。また、ワンド横の石神井川本流においても投網・手網による調査をしました。

第2回調査は平成30年9月25日に、荒川・隅田川・石神井川で、船からの投網による調査をしました。

第3回調査は平成30年10月9日に、荒川・荒川子どもの水辺ワンド・新河岸川で、北区釣魚連合会の協力による釣りと、荒川・新河岸川で船からの投網による調査をしました。

採集した一部の魚については、可食部の総水銀とPCBの含有量について魚肉分析をしました。

	調査日	調査項目	調査方法	調査場所
第1回	9月12日	魚類生息状況	歩いての投網・手網	石神井川・石神井川もみじ緑地ワンド 荒川子どもの水辺ワンド
第2回	9月25日	魚類生息状況	船からの投網	荒川 隅田川 石神井川
第3回	10月9日	魚類生息状況 魚肉分析	釣り 船からの投網	荒川・荒川子どもの水辺ワンド 新河岸川

〔石神井川もみじ緑地ワンド（音無もみじ緑地）〕

すり鉢状の護岸構造のため川岸近くまで降りることができます。川に面してワンドが設けられ、本流の流水環境に対して静水環境を付加することで、河川の構造的環境の多様性を高めています。ワンドの中央には水生植物などが繁茂し、増水時に川から入ってきた魚が繁殖しやすいようになっています。



〔荒川子どもの水辺ワンド（北区・子どもの水辺）〕

JR荒川鉄橋と新荒川大橋の間に挟まれた高水敷に、ワンドのある自然地「北区・子どもの水辺」が整備されています。維持管理や調査は、地域のボランティアの方々の熱心な活動に支えられ、良好な生態系の保持と多世代にわたる人々の自然環境学習の場として利用されています。国土交通大臣表彰の「平成26年度手づくり郷土賞」一般部門に選定されています。



【調査結果】

3 日間の調査で、35 種類 1400 尾の魚類が確認されました。種類数は既往 2 位の記録、個体数は最多でした。新たに 1 種類の魚類（カライワシ）が確認され、調査を始めてから今までに確認された魚種は 58 種類となりました。

東京都レッドリスト記載種は 10 種類、環境省レッドリスト記載種は 6 種類、外来種は 5 種類確認されました。魚種の内訳は、淡水魚種と海水・汽水性魚種であり、広い範囲が汽水域や感潮域である北区内河川の特徴を表しています。

石神井川もみじ緑地ワンドで確認されたアブラハヤ・シマドジョウ・メダカは元々この川には生息せず流れ分布も異なるため、人為的放流によるものと考えられます。人為的放流は地域に形成された生物相や生態系に様々な影響を及ぼす可能性があるので行うべきではありません。

平成 30 年度調査で新たに確認した魚

科・種名	情報	写真
カライワシ科 カライワシ	カライワシは熱帯から亜熱帯を中心に棲息する魚で、南アジアでは全長 1m にも達する。かつては南日本にしか見られなかったが、現在の北限記録は利根川河口。汽水域や淡水域にも溯上する。東京湾では葛西臨海公園の西なぎさ、江戸川の柴又ワンド、多摩川河口などで採集されている。	 平成 30 年 9 月 12 日（第 1 回目調査） 場所：荒川子どもの水辺ワンド 調査方法：投網

情報提供：君塚芳輝氏



ワンド調査の様子



船からの投網

【河川別個体数】

各河川において確認された種類と個体数は以下のとおりです。

番号	目名	科名	標準和名	荒川		隅田川	新河岸川	石神井川		合計	備考	
				荒川	子どもの水辺ワンド			石神井川	もみじ緑地ワンド			
1	ニシン	ニシン	サッパ			2				2		
2			コノシロ	90		17				107		
3	カライワシ	カライワシ	カライワシ		2					2		
4	ウナギ	ウナギ	ウナギ	1						1		
5	コイ	コイ	タモロコ					3	43	46	国内移植種	
6			スゴモロコ	1						1	国内移植種	
7			モツゴ		69			3	90	162		
8			ニゴイ	14			1			15		
9			アブラハヤ					7	346	353	国内移植種※	
10			マルタ	4	2	6		1	2	15		
11			オイカワ		1			8	41	50		
12			ハクレン			1				1	外来種	
13			キンブナ						1	1		
14			ギンブナ	2	13	1		1	11	28		
15			ゲンゴロウブナ	5		3				8	国内移植種	
16			キンギョ						1	1		
17			コイ			2	1			3		
18			タイリクバラタナゴ		35				1	36	外来種	
19			ドジョウ	ドジョウ						168	168	
20				シマドジョウ						33	33	国内移植種※
21	ダツ		メダカ	メダカ*						12	12	国内移植種※
22	カダヤシ		カダヤシ	カダヤシ		5				1	6	特定外来種
23		グッピー						2	6	8	外来種	
24	ボラ	ボラ	ボラ	6	2	4	3			15		
25	スズキ	スズキ	スズキ	75	3	5	5	5		93		
26		サンフィッシュ	ブルーギル	3	21	1				25	特定外来種	
27		ヒイラギ	ヒイラギ	22		29				51		
28		シマイサキ	シマイサキ		2					2		
29		ハゼ	アベハゼ		11					11		
30			クロダハゼ		1					1		
31			ウキゴリ		1					1		
32			ヌマチチブ	58	25	1	1	1		86		
33			シモフリシマハゼ	5	21					26		
34			マハゼ	16	4	3	5			28		
35			アシシロハゼ	1		1				2		
8目13科35種類			種類数	15	17	14	6	9	14	35		
			個体数合計	303	218	76	16	31	756	1400		

※国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

【外来種・国内移殖種の確認状況】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来生物と指定された種及び「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」に記載された外来種を「外来種」としました。

特定外来生物に指定されているカダヤシは在来のメダカとの棲息場所や餌の競合が懸念されています。ブルーギルは小型魚類などを捕食するため、在来生物群集に対する影響が懸念されています。

目名	科名	標準和名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト
コイ	コイ	ハクレン		○				●
		タイリクバラタナゴ	○			○		●
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	○			○	●	●
		グッピー				○		●
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○	○			●	●

【絶滅危惧種等の確認状況】

環境省レッドリスト及び東京都レッドリスト（2010年版）の選定基準で指定されている種。
東京都レッドリストは区部の評価を基準としました。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	東京都 レッドデータリスト	環境省 レッドリスト	移殖種
ウナギ	ウナギ	ウナギ	○				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＢ類	
コイ	コイ	スゴモロコ	○					絶滅危惧Ⅱ類	○
		ニゴイ	○		○		準絶滅危惧		
		アブラハヤ*				○	絶滅危惧Ⅱ類		○
		マルタ	○	○		○	留意種		
		ギンブナ	○	○		○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
		ゲンゴロウブナ	○	○				絶滅危惧ⅠＢ類	○
	ドジョウ	ドジョウ				○		準絶滅危惧	
		シマドジョウ*				○	絶滅危惧Ⅱ類		○
ダツ	メダカ	メダカ*				○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○
スズキ	ハゼ	アベハゼ	○				準絶滅危惧		
		ヌマチチブ	○	○	○	○	留意種		
		アシシロハゼ	○	○			留意種		

※荒川水系に天然分布する魚種ではあるが、流域分布からみて国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版」（東京都環境局）

絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの

絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

留意種：現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため上記カテゴリーには該当しないが、留意が必要と考えられるもの

「環境省レッドリスト2018【汽水・淡水魚類】」

絶滅危惧ⅠＢ類：ⅠＡ類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。

【魚肉分析結果】

採集した魚類の中から6検体を選び、可食部に含まれている総水銀と PCB の量を分析しました。その結果、全検体で総水銀と PCB が検出されました。このうち JR 荒川鉄橋下で採集したスズキに含まれていた総水銀の含有量は、他の検体と比較して高い数値でした。

魚類は自然界に存在する水銀を食物連鎖の過程で体内に蓄積していきます。水銀含有量は食物連鎖の上位のものほど増加し、魚の成長（体のサイズの増大）とともに体内に濃縮されていきます。スズキは魚食性で、この辺りの流域では食物連鎖の上位種であり、また JR 荒川鉄橋下で採集したスズキのサイズが全長 553mmと大きかったことから、他の魚と比較して総水銀の含有量が多かったと考えられます。

平成 30 年 10 月 9 日採集

	魚類名	捕獲河川名	場所	総水銀	PCB
				mg/kg	mg/kg
1	スズキ	荒川	戸田橋下流	0.36	0.34
2	マハゼ	荒川	菖蒲川荒川合流点右岸	0.05	0.20
3	スズキ	荒川	JR荒川鉄橋下	0.50	0.85
4	スズキ	荒川	新荒川大橋下流150m付近右岸	0.22	0.29
5	スズキ	荒川	新岩淵水門100m付近荒川右岸	0.30	0.47
6	スズキ	荒川	旧芝川荒川合流点	0.23	0.36

- （備考） 1.総水銀とは水銀及びその化合物をいう。
 2.分析値は全て乾燥試料あたりに換算してある。
 3.分析部位の可食部については、それぞれ数尾の可食部を混合したものである。
 4.暫定的規制値
 ・総水銀…0.4mg/kg （内水面水域の河川産の魚介類については適用外）
 （昭和 48 年 7 月 23 日付厚生省環境衛生局長通知「魚介類の水銀の暫定的規制値について」）
 ・PCB 内海内湾（内水面を含む）魚介類（可食部）…3.0mg/kg
 （昭和 47 年 8 月 24 日付厚生省環境衛生局長通知「食品中に残留する PCB の規制について」）
 5.分析方法：衛生試験方法 2.4 食品汚染物試験法準拠

【資料】

第1回投網・手網調査の結果（平成30年9月12日）

(1)石神井川

もみじ緑地ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	50~96	38~77	43
2	モツゴ	42~84	35~66	90
3	アブラハヤ	18~70	16~58	346
4	マルタ	63~73	53~58	2
5	オイカワ	21~104	18~83	41
6	ギンブナ	120	94	1
7	ギンブナ	61~115	47~90	11
8	キンギョ	55	41	1
9	タイリクバラタナゴ	56	47	1
10	ドジョウ	35~140	28~122	168
11	シマドジョウ	36~50	28~43	33
12	メダカ	22~32	19~26	12
13	カダヤシ	11	9	1
14	グッピー	23~48	15~38	6

もみじ緑地ワンド横本流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	52~58	42~44	3
2	モツゴ	40~50	32~39	3
3	アブラハヤ	40~50	32~41	7
4	オイカワ	62~85	53~68	8
5	ギンブナ	82	66	1
6	グッピー	34~44	25~33	2

(2)荒川

荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	カライワシ	140~147	113~118	2
2	モツゴ	29~79	24~62	69
3	マルタ	17~74	15~60	2
4	オイカワ	25	22	1
5	ギンブナ	41~108	31~84	13
6	タイリクバラタナゴ	14~33	12~27	35
7	カダヤシ	23~39	18~31	5
8	ボラ	86~98	71~79	2
9	スズキ	112~165	94~133	3
10	ブルーギル	28~50	20~48	20
11	シマイサキ	16~34	13~28	2
12	アベハゼ	22~29	18~23	11
13	クロダハゼ	33	28	1
14	ウキゴリ（淡水型）	63	47	1
15	ヌマチチブ	18~46	16~37	24
16	シモフリシマハゼ	20~51	17~45	21
17	マハゼ	73~102	59~84	4

第2回投網調査の結果（平成30年9月25日）

(1)荒川

新荒川大橋下流600-800m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	72~96	57~96	48
2	ニゴイ	132~138	110~114	5
3	マルタ	155	123	1
4	ボラ	117~194	95~158	4
5	スズキ	162~171	138~139	2
6	ヒイラギ	16~51	13~41	16
7	マハゼ	120~127	103~106	2

旧芝川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	71~100	58~92	23
2	スゴモロコ	40	34	1
3	ニゴイ	208~213	171~172	2
4	マルタ	159	129	1
5	スズキ	168~198	133~158	2
6	ヒイラギ	35~60	24~48	2

(2)隅田川

新岩淵水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	71~115	57~74	7
2	マルタ	147~158	108~129	6
3	ギンブナ	200	157	1
4	ゲンゴロウブナ	400	310	1
5	ボラ	18~132	14~108	2
6	スズキ	174	121	1
7	ブルーギル	169	135	1
8	ヒイラギ	22~70	16~61	29
9	マハゼ	83	67	1

新神谷橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	サッパ	185	166	1
2	コノシロ	70~96	57~76	4
3	ゲンゴロウブナ	359~380	299~308	2
4	スズキ	162~507	121~413	3
5	マハゼ	116	95	1
6	アジシロハゼ	40	34	1

みやぎ水再生センター排水口付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	サッパ	87	72	1
2	コノシロ	75~86	59~65	6
3	ハクレン	810	720	1
4	コイ	615~640	491~520	2
5	ボラ	368~397	139~359	2
6	スズキ	180	139	1
7	マハゼ	116	94	1

溝田橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヌマチチブ	20	16	1

(3)石神井川

石神井川王子駅下トンネル内

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	192	155	1
2	スズキ	175~529	143~443	5
3	ヌマチチブ	23	19	1

第3回投網調査の結果（平成30年10月9日）

(1) 荒川

戸田橋下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	377~403	301~328	3
2	マハゼ	120	91	1

菖蒲川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ギンブナ	125~163	97~122	2
2	ゲンゴロウブナ	147~155	110~117	2
3	ボラ	395	307	1
4	スズキ	114~453	87~350	3
5	マハゼ	130	101	1
6	アジシロハゼ	32	26	1

JR荒川鉄橋上流200~400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	72~90	59~71	10
2	ヒイラギ	35	27	1
3	マハゼ	95~108	74~86	2

JR荒川鉄橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	77~90	62~71	9
2	ニゴイ	119~512	96~436	4
3	マルタ	140	113	1
4	スズキ	553	445	1
5	ヒイラギ	23~37	18~27	2
6	ヌマチチブ	22~45	18~38	58
7	シモフリシマハゼ	31~44	26~38	5
8	マハゼ	132	105	1

新荒川大橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ゲンゴロウブナ	120~411	89~330	3
2	ボラ	193	155	1
3	スズキ	136~170	108~133	2
4	ヒイラギ	26	20	1

(2) 新河岸川

浮間水再生センター排水口付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	140	113	1
2	コイ	619	488	1
3	マハゼ	139	111	1

新河岸大橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	134~213	107~173	3

第3回釣り調査の結果（平成30年10月9日）

(1) 荒川

A. 菖蒲川荒川合流点右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	129~176	104~141	7
2	ブルーギル	165	131	1
3	マハゼ	113~125	90~99	6

B. 荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ブルーギル	65	50	1
2	ヌマチチブ	35	29	1

C. JR荒川鉄橋上流20m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	137~210	110~165	4
2	ブルーギル	65	50	1

D. JR荒川鉄橋上流200m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	127~198	99~161	4
2	マハゼ	112	93	1

E. JR荒川鉄橋上流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ウナギ	246	228	1
2	ニゴイ	244~246	196~203	2
3	スズキ	161~175	134~141	2

F. 新荒川大橋下流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	145~224	114~180	9
2	ブルーギル	152	121	1
3	マハゼ	128~137	100~113	2

G. 新荒川大橋下流500m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	172	143	1
2	スズキ	164~173	134~136	2

H. 新岩淵水門下流100m付近荒川右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	185	147	1
2	スズキ	145~301	118~238	13

I. 旧芝川荒川合流点

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	147~217	119~175	21

(2) 新河岸川

J. 新志茂橋付近左岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	150~239	121~194	5
2	ヌマチチブ	67	52	1
3	マハゼ	112~134	91~108	4

北区で見られる魚たち 1 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

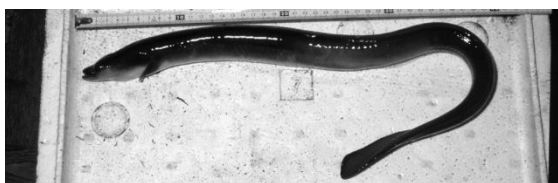
<1> サッパ



<2> コノシロ



<3> ウナギ



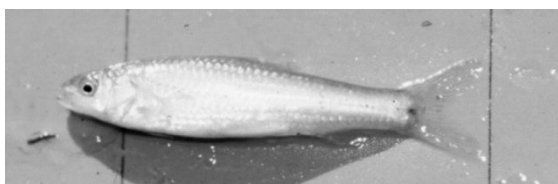
<4> アユ



<5> ワカサギ



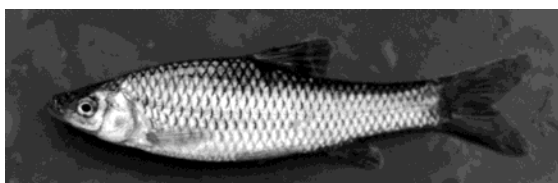
<6> タモロコ



<7> スゴモロコ



<8> モツゴ



<9> ニゴイ



<10> カマツカ



<11> ツチフキ



<12> アブラハヤ



<13> ウグイ



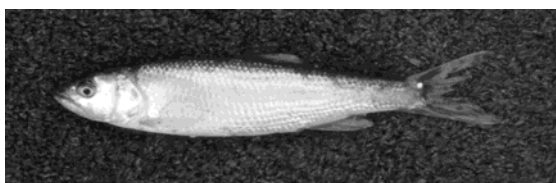
<14> マルタ



<15> オイカワ

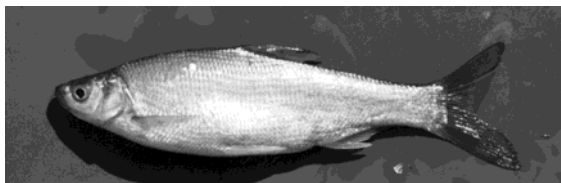


<16> ハス

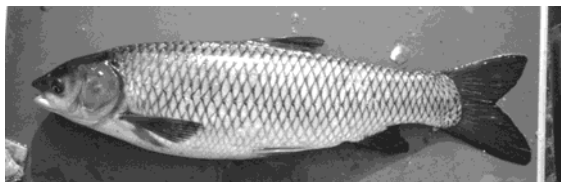


北区で見られる魚たち 2 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

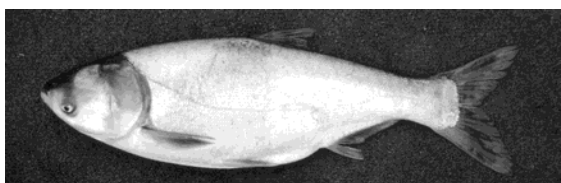
<17> ワタカ



<18> ソウギョ



<19> ハクレン



<20> コクレン



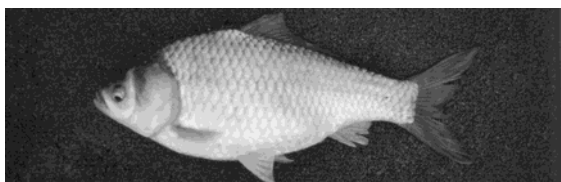
<21> キンブナ



<22> ギンブナ



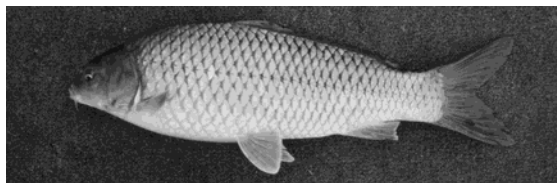
<23> ゲンゴロウブナ



<24> キンギョ



<25> コイ



<26> ヤリタナゴ



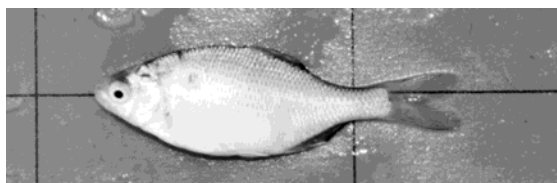
<27> アカヒレタビラ



<28> タイリクバラタナゴ



<29> ゼニタナゴ



<30> ドジョウ



<31> シマドジョウ

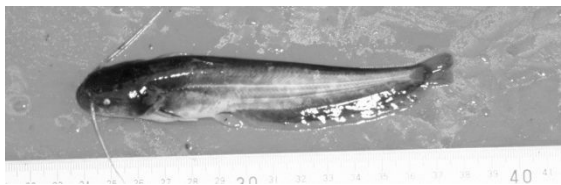


<32> ギバチ



北区で見られる魚たち 3 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<33> ナマズ



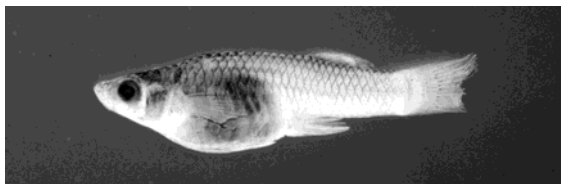
<34> メダカ



<35> クルメサヨリ



<36> カダヤシ ※特定外来生物



<37> グッピー



<38> ボラ



<39> カムルチー



<40> スズキ



<41> キチヌ



<42> オオクチバス ※特定外来生物



<43> コクチバス ※特定外来生物



<44> ブルーギル ※特定外来生物



<45> ヒイラギ



<46> シマイサキ



<47> コトヒキ



<48> アベハゼ

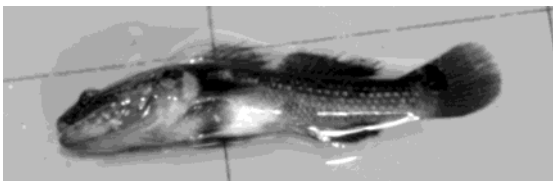


北区で見られる魚たち 4 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<49> ヒナハゼ



<54> ヌマチチブ



<50> クロダハゼ



<55> シモフリシマハゼ



<51> ウロハゼ



<56> マハゼ



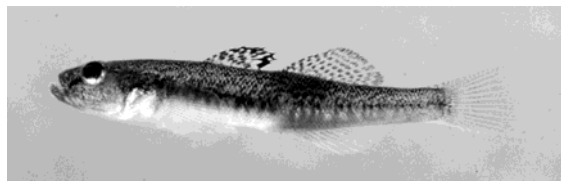
<52> ウキゴリ (淡水型)



<57> アシシロハゼ



<53> ビリンゴ



<58> カライワシ



君塚芳輝氏撮影：

1,10,13,21,26,31,36,46,47,48,50,53

【年度別捕獲魚類一覽表】

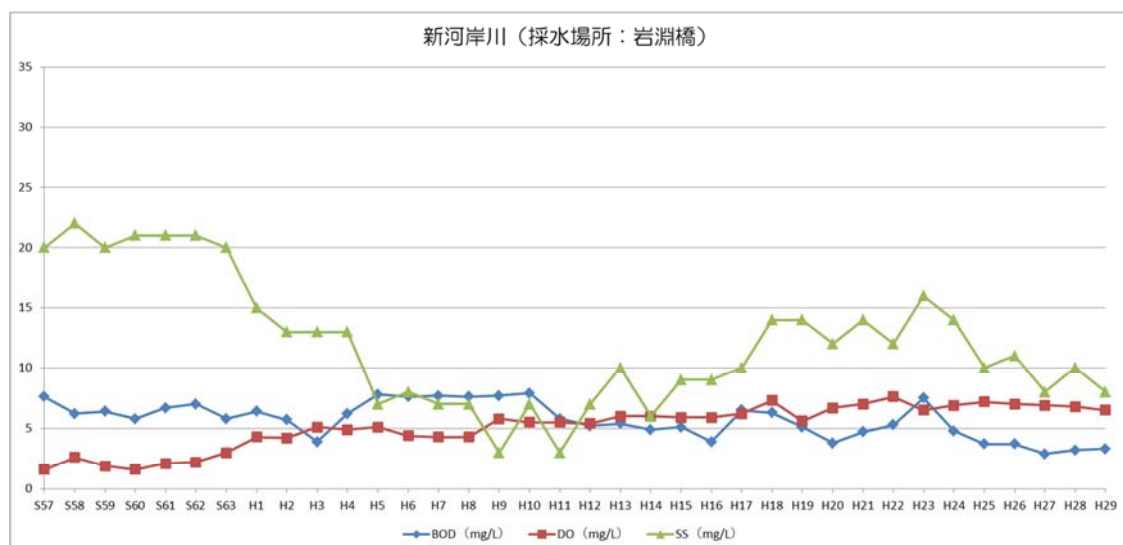
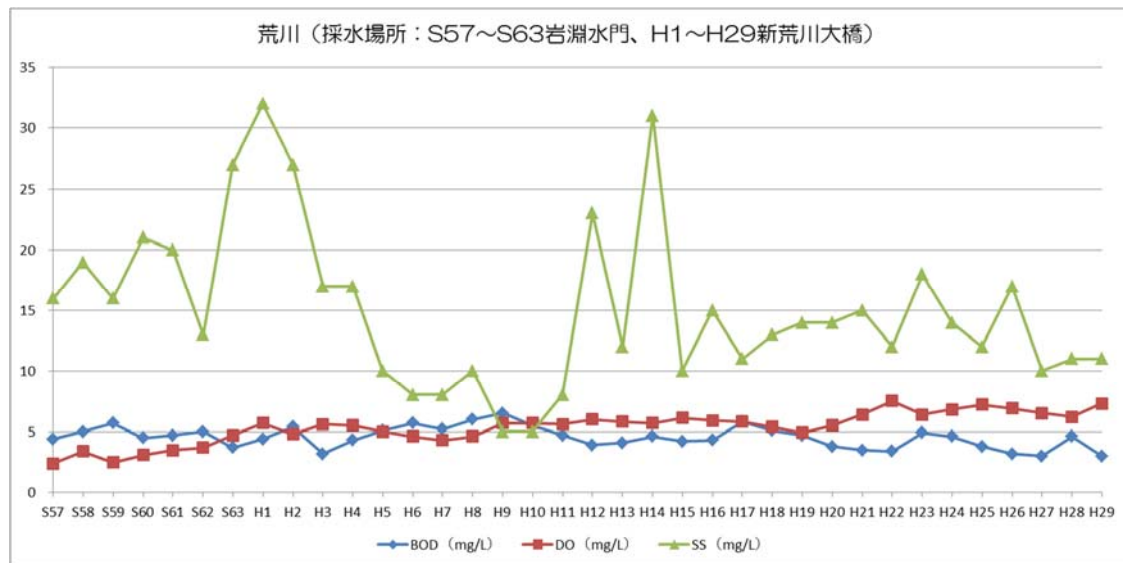
[illegible]

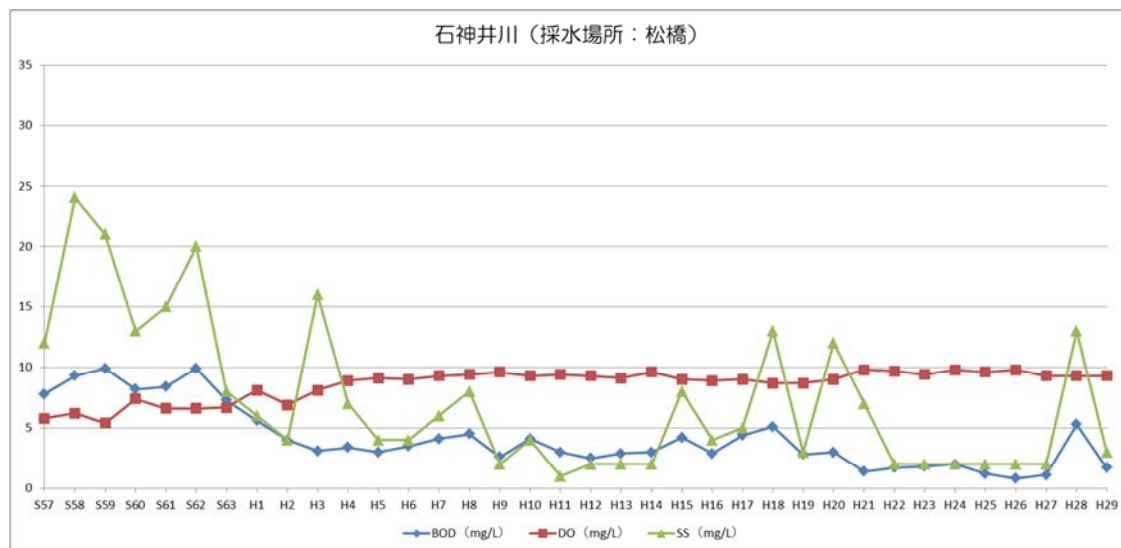
【河川別・年度別捕獲魚類一覽表】

[illegible]

河川名	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	種類合計(昭和59年度～平成30年度)																		
荒 川	ハス	1	ワカサギ	44	ワカサギ	13	ワカサギ	4	マルタ	5	ウナギ	1	ワカサギ	1	ウナギ	1	ワカサギ	2	コノシロ	30	コノシロ	1	コノシロ	65	ウナギ	3	サツバ	2	コノシロ	19	コノシロ	90	サツバ	4	ゼニナガ
	マルタ	13	マルタ	10	オイカワ	9	マルタ	5	ワタカ	1	オイカワ	1	オイカワ	2	ハス	12	ハス	1	モツゴ	8	コノシロ	3	ウナギ	2	ワカサギ	6	コノシロ	2	タモロコ	2	カライワシ	2	コノシロ	ナマズ	
	ワタカ	1	ハクレン	1	ハス	2	ハクレン	1	ハクレン	1	ハス	6	ハス	2	マルタ	22	ハクレン	1	ニゴイ	1	タモロコ	1	ニゴイ	2	タモロコ	14	ワカサギ	9	スズキ	1	ウナギ	1	カライワシ	1	ドジョウ
	ハクレン	1	モツゴ	147	マルタ	51	モツゴ	143	モツゴ	86	マルタ	28	マルタ	22	タモロコ	10	モツゴ	41	マルタ	1	モツゴ	87	モツゴ	28	モツゴ	34	タモロコ	1	モツゴ	56	1	スズモロコ	1	ウナギ	
	モツゴ	101	カマツカ	1	ハクレン	2	スズモロコ	4	ニゴイ	11	タモロコ	1	モツゴ	57	モツゴ	43	ニゴイ	23	ハス	1	ニゴイ	21	ニゴイ	7	ニゴイ	2	モツゴ	11	ニゴイ	8	モツゴ	89	アユ	メダカ	
	スズモロコ	1	スズモロコ	1	モツゴ	116	ニゴイ	1	コイ	13	モツゴ	78	スズモロコ	3	スズモロコ	8	コイ	7	ギンブナ	47	ウグイ	1	マルタ	18	ツツフキ	2	ニゴイ	8	マルタ	9	ニゴイ	14	ワカサギ		
	ニゴイ	13	ニゴイ	9	ツツフキ	1	コイ	9	ゲンゴロウナ	5	ニゴイ	6	ニゴイ	9	マルタ	1	ゲンゴロウナ	3	ギンブナ	14	ウグイ	18	オカワ	3	ツツフキ	14	ツツフキ	1	ハス	2	マルタ	6	タモロコ		
	コイ	3	コイ	5	スズモロコ	2	ゲンゴロウナ	10	ギンブナ	65	コイ	4	コイ	7	コイ	5	ゲンゴロウナ	6	コイ	2	ハス	12	オカワ	8	マルタ	36	ギンブナ	85	オカワ	1	スズモロコ	1	タモロコ		
	ゲンゴロウナ	3	ゲンゴロウナ	2	ニゴイ	11	ギンブナ	13	タイリクバラタナゴ	3	ゲンゴロウナ	3	ゲンゴロウナ	5	ギンブナ	17	タイリクバラタナゴ	1	ギンブナ	13	ギンブナ	4	ハス	1	オカワ	6	ゲンゴロウナ	3	ギンブナ	15	モツゴ	1	カラムチ		
	ギンブナ	2	ギンブナ	2	コイ	3	タイリクバラタナゴ	1	カダヤシ	7	ギンブナ	64	ギンブナ	38	ギンブナ	33	タイリクバラタナゴ	55	タイリクバラタナゴ	9	ゲンゴロウナ	3	ゲンゴロウナ	1	ハクレン	2	ハス	3	コイ	7	ゲンゴロウナ	5	ニゴイ	スズキ	
	ボラ	18	カダヤシ	5	ゲンゴロウナ	2	メダカ	2	ボラ	33	タイリクバラタナゴ	27	タイリクバラタナゴ	34	タイリクバラタナゴ	53	カダヤシ	1	ボラ	15	コイ	6	コイ	3	ギンブナ	17	ハクレン	4	タイリクバラタナゴ	89	タイリクバラタナゴ	35	カマツカ	キナシ	
	スズキ	10	ボラ	39	ギンブナ	10	カダヤシ	41	スズキ	28	ボラ	46	タイリクバラタナゴ	1	メダカ	7	ボラ	70	カラムチ	14	タイリクバラタナゴ	4	ゲンゴロウナ	3	ギンブナ	35	ギンブナ	3	カダヤシ	5	ウグイ	5	ツツフキ	ブルーギル	
	ヒラギ	2	スズキ	7	アサヒナギ	1	ボラ	70	ブルーギル	1	カラムチ	6	カダヤシ	5	カダヤシ	11	カラムチ	94	カラムチ	2	メダカ	1	コイ	2	コイ	11	ゲンゴロウナ	3	カダヤシ	69	ボラ	8	ウグイ	オオクチナシ	
	アマチチ	53	オオクチナシ	2	タイリクバラタナゴ	2	スズキ	16	シマイサキ	3	スズキ	56	ボラ	60	ボラ	26	スズキ	14	スズキ	95	カラムチ	2	メダカ	2	タイリクバラタナゴ	8	コイ	5	ボラ	97	スズキ	78	マルタ	コクチナシ	
	マハゼ	53	ブルーギル	9	メダカ	8	オオクチナシ	5	ヨシノボリ	1	ブルーギル	16	スズキ	20	スズキ	26	ブルーギル	7	ブルーギル	16	カダヤシ	5	カダヤシ	6	コイ	2	タイリクバラタナゴ	11	スズキ	50	ブルーギル	24	オカワ	ヒラギ	
	コノシロ	1	シマイサキ	1	カダヤシ	3																													

【河川水質の経年変化（年平均値）】





【北区を流れる河川の環境基準】

類型	該当河川	基準値			
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質濃度 (SS)	溶存酸素量 (DO)
C	荒川 隅田川 石神井川	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L以下	5mg/L以上
D	新河岸川	6.0以上 8.5以下	8mg/L以下	100mg/L以下	2mg/L以上

※類型は東京都告示第 597 号（平成 9 年 5 月 13 日）により指定されている。

- 水素イオン濃度（pH）：
液体が酸性であるかアルカリ性であるかを示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7 が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。
- 生物化学的酸素要求量（BOD）：
水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素の量をもって表したものの。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
- 浮遊物質濃度（SS）：
水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつ。河川に SS が多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害し、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、川底の生物にも悪影響を及ぼします。
- 溶存酸素量（DO）：
水中に溶解している酸素のこと。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、魚類は生存できません。



北区河川生物生息調査報告書

平成 31 年 3 月発行

刊行物登録番号

30-1-090

発行／北区生活環境部環境課

〒114-8508

東京都北区王子本町 1-15-22

TEL 03 (3908) 8618 (直通)